

| | | | | | | | |
|---------|---|---|-----|-----------------------------|---|---------|------|
| 学 科 | 鍼灸マッサージ科 | 学 年 | 1年生 | 期 別 | 通年 | 科目の実務経歴 | 有 |
| 授業科目名 | 東洋医学概論 I | | | 担当教員 | 山梨 あかり | | |
| 授業の方法 | 講 義 | | | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 60時間 |
| 学修内容 | 東洋の自然哲学、東洋医学における人体の構造と機能の考え方、病理観などの基本的知識を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業の到達目標 | 2) 医学的知識 4. 東洋医学の自然哲学・健康観・病理観について理解する。 ※病理観については病の原因についてのみ学習する。 | | | | | | |
| 授業計画 | 前 期 | | | 後 期 | | | |
| | 回 | テーマ | | 回 | テーマ | | |
| | 1 | 第1章 東洋医学の特徴 第1節 東洋医学の沿革 I. 東洋医学の歴史 | | 1 | 第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液) | | |
| | 2 | 第1章 東洋医学の特徴 第2節 人体の見方 I. 人と自然の統一性 II. 有機的な統一体としての人体 | | 2 | 第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液) | | |
| | 3 | 第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 I. 五行学説の 基本内容 II. 東洋医学における五行学説の運用 | | 3 | 第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液) | | |
| | 4 | 第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 I. 五行学説の 基本内容 II. 東洋医学における五行学説の運用 | | 4 | 第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液) | | |
| | 5 | 第2章 生理と病理 第1節 蔵象 I. 蔵象学説 | | 5 | 第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液) | | |
| | 6 | 第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域 | | 6 | 第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液) | | |
| | 7 | 第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域 | | 7 | 第3章 東洋医学の思想 第1節 五行学説 I. 五行学説の基本内容 II. 東洋医学における五行学説の運用 | | |
| | 8 | 第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域 | | 8 | 第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 I. 五行学説の基本内容 II. 東洋医学における五行学説の運用 | | |
| | 9 | 第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓と その機能に関する領域 III. 五臓の相互関係 | | 9 | 第3章 東洋医学の思想 第1節 陰陽学説 I. 陰陽学説の 基本内容 II. 東洋医学における陰陽学説の運用 | | |
| | 10 | 第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓と その機能に関する領域 III. 五臓の相互関係 | | 10 | 第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 I. 病因 | | |
| | 11 | 第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓と その機能に関する領域 III. 五臓の相互関係 | | 11 | 第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 I. 病因 | | |
| | 12 | 第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓と その機能に関する領域 III. 五臓の相互関係 | | 12 | 第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 I. 病因 | | |
| | 13 | 第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓と その機能に関する領域 III. 五臓の相互関係 | | 13 | 第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 I. 病因 | | |
| | 14 | 第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓と その機能に関する領域 III. 五臓の相互関係 | | 14 | 第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 II. 病機 | | |
| 15 | 第2章 生理と病理 第2節 蔵象 IV. 六腑の協調関係 | | 15 | 第3章 東洋医学の思想 第5節 病因病機 II. 病機 | | | |
| 評価基準 | 評価: 90-100点(A評価)、80-89点(B評価)、70-79点(C評価)、60-69点(D評価)、59点以下(F・不可) | | | | | | |
| 評価方法 | 各種小テスト、定期試験により総合的に評価いたします。 | | | 実務経歴 | 臨床歴: 6年 教歴: 4年 | | |
| 履修上の注意 | わからない漢字は飛ばさず、必ず、調べる・聞くなどをしてメモを取るようにしてください。また、必要に応じプリントを配布します。(A4サイズ)時系列に沿ってファイリングしてください。 | | | 授業時間外の学習 | 小テストの内容は授業のまとめとなっておりますので、反復して忘れないようにしましょう。 | | |
| 使用教材 | 教科書 ・東洋療法学校協会「新版 東洋医学概論 第1版」 参考図書 ・東洋学術出版「針灸学 基礎編」 ・経絡治療学会編纂 日本鍼灸医学(経絡治療・基礎編) | | | 連絡先 | 質問や相談があるときは事務課を通して、訪ねてください。 | | |